

CASBEE京都-新築(2015年版)
シーズ京都西大路五条パークホームズ

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1 屋光率										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 屋光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
2 アスベスト対策										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
3 衛生管理業務										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性					2.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.5	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					-	-	2.0	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	市街地型美観形成地区であり、認定を受けている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				品確法 断熱等性能等級4相当	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.82	5.0	0.50	-	-	5.0
3.1 集合住宅以外の評価(3a.3b)					1.0	-	-	-	
3.2 集合住宅の評価(3c)				エネファームの採用	5.0	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 集合住宅以外の評価					-	-	-	-	
4.1.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.1.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
4.2 集合住宅の評価					3.0	1.00	-	-	
4.2.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護					3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			ノンフロン断熱材を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮				地球温暖化への配慮を行っている	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					-	-	-	-	
1	騒音				-	-	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策を行っている、屋外広告物がない	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる